

# イメージカラーによる観光景観の特徴に関する研究

正会員 西原由里子<sup>3</sup> 佐藤誠治<sup>1</sup>  
同 小林祐司<sup>2</sup> 姫野由香<sup>2</sup>

イメージカラー イメージボキャブラリー 景観構成要素

## はじめに

観光において観光地に対するイメージは、形など具体的なものから、形容詞で表現される抽象的なものまで多岐にわたるため、本研究では、漠然としたイメージを集約しやすいもの、また地域同士を比較しやすいものとして「色」に着目する。そして、観光地に対するイメージを「色」の視点から分析することで、大分県における観光景観の特徴を明らかにすることを目的とする。

## 研究方法

大分県内の印象に残っている市町村のイメージに関するアンケート調査をインタビュー形式で行う。被験者を大分県の観光地を熟知した県内の観光協会職員とし、調査対象地域を選び出す。調査項目を イメージカラー イメージボキャブラリー イメージカラーを想起させる景観構成要素 とし、それぞれの調査項目について、その関連性を探る。それらを市町村別集計し、スケッチのパターン化により特徴を把握し、大分県の観光景観の特徴を明らかにする。

## 調査対象地域の選定

大分県全市町村の観光協会訪問は困難であるため調査対象地域の選定を行った。大分県観光客実態調査報告書より、観光客の大分県観光地訪問頻度の割合が高い地域、また、観光動態調査より、市町村別観光客数および消費額の多い地域を対象とした。

## アンケートによるイメージカラー調査

観光協会職員にインタビュー形式のアンケートを行った。

## <調査項目>

- 1) イメージカラー：大分県内で特に印象に残った市町村（調査対象地域）に対してイメージされる色の調査。
- 2) イメージボキャブラリー：1) で挙げた色から受ける感じ、またはその色に対して持っているイメージの調査。
- 3) イメージカラーを想起させる景観構成要素：主に1) で挙げた色の理由となる景観構成要素の調査。

## イメージカラーの分類と傾向

大分県の印象に残っている市町村をイメージする色にはどのようなものがあるのかを考察した。

「HV/C 基準色票」に収録されている 613 色のうち、今回の調査で被験者が挙げた色は 48 色である。

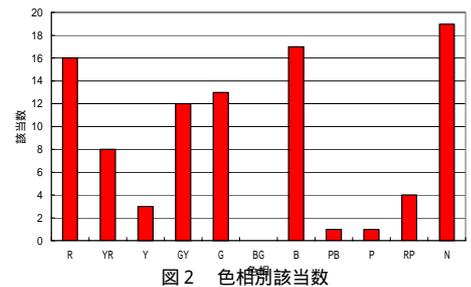
有彩色では No.26 の「10GY6/12」、No.28 の「5G5/12」、No.38 の「10B 7/8」の該当数が 7 といずれも多い。また、No.7 の「10R5/15」、No.34 の「5B 6/8」も 3 と比較的多い。無彩色では No.48 の「N9.5」が 10 と非常に多く、次いで No.44 の「N3」の 3 となっている。<表 1 参照>

色相別で見ると、無彩色「N」の該当数が最も多く、有彩色では

表 1 カラーデータ

相(H)	明(V)	彩(C)	該当人数
5R	5	12	2
5R	6	8	1
10R	4	12	2
10R	6	12	2
10R	5	12	1
10R	3	2	1
10R	3	8	2
10R	5	4	1
5YR	7	15	2
10YR	3	7	1
10YR	3	8	1
10YR	8	12	1
10YR	8	4	1
10YR	8	2	1
10YR	4	9	1
5Y	8	15	1
5Y	8	8	1
10Y	8	12	1
5GY	7	8	1
5GY	8	8	1
10GY	3	8	1
10GY	4	8	1
10GY	5	8	1
10GY	6	12	7
5G	3	4	1
5G	5	12	7
5G	7	8	2
10G	3	8	1
10G	4	8	2
5B	2	9	1
5B	6	1	1
5B	6	8	3
5B	9	1	2
10B	4	8	2
10B	6	8	1
10B	7	8	7
5PB	4	12	1
10P	6	8	1
5RP	7	8	1
10RP	6	6	1
10RP	7	8	2
	2		3
	3		2
	7		2
	9		2
N	9.5		10
Total			94

「B」= 青系、「R」= 赤系が 17、16 と多い。「G」、「GY」などの緑系も該当数が多い。また、「BG」= 青緑系の該当数は 0 となっている。<図 2 参照>



## 市町村別で見るイメージカラーの把握

大分県の全 58 市町村のうち、アンケートで挙げたのは 28 市町村である。大分県全市町村を 8 地域に分け、地域別で示す。

## <表 3 参照>

考察より、湯布院町、久住町は挙げられているイメージカラー数が非常に多く、また九重町もイメージカラーの数が比較的多い。また、R (赤系) は日田市・耶馬溪町・宇佐市に、GY (黄緑系) は湯布院町・久住町に、G (緑系) は国東町・久住町に集中している。B (青系) は、28 市町村中 14 市町村で挙げられており、特定の市町村に集中していないものの、どの地域にも該当している。

表 3 - A 地域別イメージカラー表

色相	大分地域		くじゅう地域				別府・湯布院地域				日田地域			
	大分	庄内	久住	九重	直入	山香	杵築	安心院	湯布院	日田	鶴津江	大山	天瀬	
R	0	0	0	1	0	0	0	1	1	3	0	0	1	
YR	0	0	0	1	0	0	0	2	0	2	0	0	0	
Y	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
GY	0	0	4	1	0	0	1	0	0	4	0	0	1	
G	0	1	4	2	0	0	0	0	2	0	1	0	0	
BG	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
B	0	1	2	1	0	1	0	1	0	2	1	0	0	
PB	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
P	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
RP	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
N	0	0	1	2	0	2	0	0	0	6	1	1	0	
Total	1	2	13	8	1	3	1	3	1	17	5	3	2	

表 3 - B 地域別イメージカラー表

色相	奥豊後・大野川地域			中津・耶馬溪・宇佐地域			国東地域				日豊海岸地域			
	緒方	大野	竹田	玖珠	耶馬溪	宇佐	豊後高田	香々地	姫島	国東	臼杵	佐賀関	佐伯	鶴見
R	0	0	2	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	1
YR	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Y	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
GY	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
BG	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0
PB	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
RP	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
N	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	2	2	0	0
Total	4	2	3	2	4	3	1	1	1	3	2	3	1	3

イメージボキャブラリーのグルーピング

KJ法を用いてイメージボキャブラリーの特徴を探る。

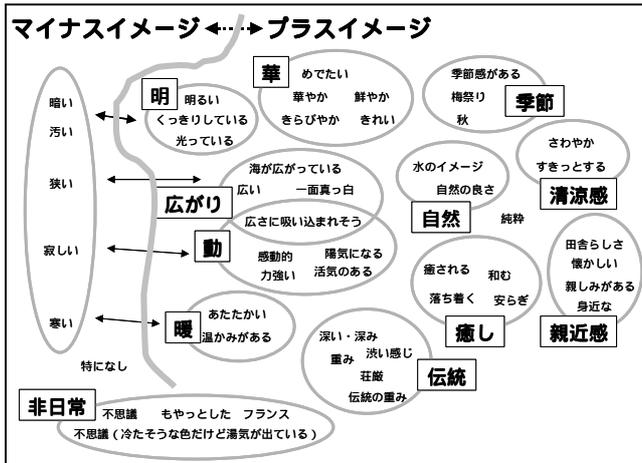


図4 イメージボキャブラリー分類図

市町村別に見るイメージボキャブラリーの把握

各市町村毎にイメージボキャブラリーの該当数を出し、その特徴を把握する。

- ・挙げられたイメージボキャブラリーの数について市町村別で見ると、湯布院町・久住町・九重町が非常に多い。
- ・湯布院町では、“親近感”や“華”を表すものが多い。
- ・久住町では“明”を表すボキャブラリーが非常に多い。また、九重町では“明”が多い。久住町と九重町では傾向が似ている。

イメージボキャブラリーとイメージカラーの関連性

色相別にイメージボキャブラリーの該当数を集計、イメージボキャブラリーとイメージカラーの関連性を明らかにした。〈表5〉

表5 関連性概略表

色相	イメージボキャブラリー	
	多数該当	その他の該当
R	華	動、伝統
YR	暖、マイナスイメージ	
GY	明、華	伝統
G	明、華	癒し、伝統
B・PB	華、広がり	
無彩色	華、癒し	マイナスイメージ

全体としてイメージボキャブラリーは、色相 R (赤茶系)・GY (黄緑系)・G (緑系)・無彩色に集中している。

イメージカラーを想起させる景観構成要素の分類

KJ法を用いてイメージカラーを想起させた景観構成要素の特徴を探る。分類の結果、景観構成要素は〈自然景観〉草花、木、山、水、空、高原、季節、時間、光と〈人文資源〉日本家屋、まち、祭、施設、温泉の19グループにグループ化された。ただし、イメージボキャブラリーのように単純なグループ化は行えず、グループ毎が重なり合う複雑な形状をなしている。比較的景観要素が多く、中でも“大規模景観”と“植物”にくくられる景観構成要素が多いことが把握できた。

市町村別に見るイメージカラーを想起させる景観構成要素の把握

市町村別にイメージカラーを想起させる景観構成要素の該当数を、前項のKJ法を基に出し、その特徴を把握した。表6に示す。

景観構成要素とイメージカラーの関連性

イメージカラー毎に景観構成要素の該当数を集計、関連性を探る。

〈表7参照〉

表6 イメージカラー別地域別景観構成要素表

色相	景観構成要素の特徴	
	自然景観	人文資源
R	季節感のある木系植物、紅葉	歴史的資源・町並み
YR	空、光、時間、星空・夜景など	
Y	山・高原系の大規模景観	
GY	木系植物、木・高原の大規模景観	
G	木系植物、山・高原系の大規模景観	
B・PB	水・空系の大規模景観	
P・RP	季節感のある草花系	
無彩色	季節・時間・光系	施設・歴史的町並み

表7 地域別景観構成要素の特徴

地域名	市町村名	景観構成要素の特徴
国東	豊後高田市	人文資源
	香々地町・姫島村・国東町	自然景観
別府・湯布院	湯布院町	多くのグループに該当
	杵築市	歴史的町並み
大分	大分市・庄内町	自然景観
	日豊海岸	歴史的町並み
奥豊後・大野川	白杵市	自然景観
	佐賀関町・鶴見町	海など(大規模景観)
	緒方町・大野町	滝など(小規模水系景観構成要素)、季節が関連
くじゅう	久住町	自然景観のみ、水系は挙げられていない
	九重町	季節に関連した景観構成要素
日田	日田市	人文資源、歴史的町並み、祭り
	中津・耶馬溪・宇佐	紅葉(季節に関連した木系の景観構成要素)
	宇佐市	宇佐神宮(歴史的資源)

被験者が描いたスケッチの分類と特徴

アンケート調査の際、イメージカラーを想起させる景観を被験者にスケッチしてもらい、そのスケッチをクラスター分析(グループ間平均連結法)を用いて分類した。クラスター分析は、スケッチされている景観のイメージカラーのマンセル座標とRGB座標のデータ

表8 グループ化したスケッチの特徴

グループ	イメージカラー	被験者が描いた景観スケッチ
1	無彩色	歴史的町並み、光系景観
2	P・RP	華やかな花など
3	PB・B	広いイメージの海・空
4	G・YG	山・草原
5	Y・YR	星空・光系、マイナスイメージの枯草など
6	YR・R	自然景観、歴史的町並み
7	R	季節に関連、歴史的資源(宇佐神宮)

を用いて行った。分類の結果、7つのグループが出来、各グループの傾向を探り、その結果を表8に示す。

おわりに

本研究で得た結果を以下に述べる。

- ・無彩色(黒・白・灰)を想起させる景観には、石畳などの歴史的町並みや、星空などの夜景がある。
- ・P・RP(紫・ピンク)は桜の木やチューリップなど、花が構成要素として含まれ、華やかさや季節感を与えている。
- ・P・BP(青)は、海や空で構成される大規模自然景観として特徴付けられ、「きれい」「広い」などの印象を与える。海辺景観は海岸地域が挙げられ、空は山間地域で、山や草原と対比している。
- ・GY・G(緑)は、山や草原で構成される大規模自然景観として特徴付けられ、「明るい」「きれい」などの印象を与える。
- ・Y・YR(黄)は、草花や光などが構成要素として含まれ、明るさや温かみなどの印象を与える。
- ・YR・R(茶)は温かみや親しみを感じさせる草花や町並みの構成要素と、逆にマイナスイメージを与える枯草や枯れ木、泥水などの構成要素がある。
- ・R(赤)は、季節感や温かみ、華やかさなどを与える紅葉を構成要素として特徴付けられる。また、歴史的な人文資源も特徴のひとつである。

\*1 大分大学工学部建設工学科 教授 工・博

\*2 大分大学工学部建設工学科 助手 工・修

\*3 大分大学大学院工学研究科建設工学専攻博士前期課程

Prof., Dept. of Architectural Eng., Oita Univ., Dr. Eng.

Research Assoc., Dept. of Architectural Eng., M. Eng.

Graduate School of Eng., Oita Univ.